



別府の春 都市機能を持った温泉街の再生



伊藤 弘紀 (いとう ひろき)
東京電機大学 未来科学部 建築学科



私の提案は都市機能をもった温泉街をテーマとし昔の街並みを基調に、街区の構造をつくり替える試みです。

そこで、リタイヤした団塊の世代を街に呼び込み、団塊の世代の長期滞在を主とした住宅と街区に既にある公共機能（温泉・集会所・保育所）を取り込みながら、共用スペースをもったコレクティブな街区を提案します。

計画地は大分県別府市北浜。
昔は、温泉保有地として発達し、たくさんの旅館が立ち並び、にぎわいをみせていた場所。
90年代を境に街は衰退し、歯抜け状に街並みが失われ始めました。
しかし今でも温泉は生活に密接に関わっており、洗面器片手に街を歩く姿がよくみられます。

講評

温泉都市として発達し、戦災も免れたが、1990年代を境に衰退を始め空洞化が進む別府の中心市街地を活性化するという、社会性の強いテーマに真摯に取り組んだ意欲的な作品であるところを評価したい。

都市の歴史や街の現況を丹念にサーヴェイし、現在の街の良さを残しながら、「団塊世代の長期滞在」という新たな起爆剤としての要素を融合させ、街を活性化させていこうという計画だ。隣接街区とのつながりやコミュニティを活性化させる仕掛けとして、既存の街路から街区の中にまで人の流れを導く動線をつくるというアイデアが面白い。ひとつの街区の中に住居、温泉、保育、商店、温泉熱を利用したハウス農園、共用キッチンなどの機能が組み込まれていて、街区全体が大きな「コレクティブハウス」のような建築になっている。実に楽しく活動的な日常生活がイメージされる。魅力ある新しい市街地温泉の建築デザインや、ここでのスローライフの具体的な表現、イベントのための設えなどにまで広げられると、さらに面白い提案となった可能性が感じられる。

(審査委員：青井 俊季)